

2007年10月期 業績について

1. 業績報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の堅調を背景とした設備投資の増加に加え、雇用情勢の改善により個人消費も持ち直すなど、景気は緩やかな成長を持続してきました。

このような状況のもと、当社グループは顧客の期待に応えられる製品作りを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、また原価低減への取組みなど、グループ一丸となって業績向上に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は 15,231 百万円(前期比 1.1%増)となりました。また利益面では、経常利益 980 百万円(前期比 29.9%減)、当期純利益 712 百万円(前期比 18.5%減)となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 猟銃事業

主力の米国市場は、原油高の影響による狩猟機会の減少等から購買意欲が停滞するなど、厳しい状況が続いております。新製品ボルトアクションライフルの設計の見直し等により生産が計画通り進まなかったことから、納期遅れやロスコストが発生しました。また、新設の部品加工センターへの移行費用等も発生し、減収・減益となりました。その結果、売上高は 6,337 百万円(前期比 7.1%減)、営業損失は 6 百万円となりました。

② 工作機械事業

自動車・金型関連業界を中心とする設備投資は、前年度に引き続き好調に推移いたしました。ツール部門及び加工部門は前期に比べ若干の減収・減益となりましたが、機械部門は前期に比べ、付加価値の高いガンドリルマシンの販売台数が 34.4%増と好調に推移したことから増収・増益となりました。その結果、売上高は 4,174 百万円(前期比 9.1%増)、営業利益は 890 百万円(前期比 2.2%増)となりました。なお、売上高につきましては、セグメント間の内部売上高 81 百万円を含んでおります。

③ 自動車関連事業

自動車業界は引き続き順調に推移しており、主力の純木製ステアリングハンドル及びシフトノブの販売数量は、搭載車種への装着率が増加したこと等により、前期を上回りました。その結果、売上高は 4,769 百万円(前期比 7.5%増)、営業利益は 18 百万円(前期比 29.7%減)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、売上高 32 百万円、営業損失 6 百万円となりました。

2. 次期の見通し

猟銃事業につきましては、主力の米国市場が原油価格の高騰やサブプライムローン問題等による米国経済の減速の影響を受け、引き続き厳しい状況が見込まれます。収益の回復を目指し、当社グループの強みである高品質・高付加価値製品作りの推進と、MPI-30 活動を中心にグループ一丸となって原価低減活動を推進し利益率を向上してまいります。

工作機械事業は、自動車・金型関連業界を中心に引き続き好調に推移するものと予想されます。安定的な売上・利益を確保するため、製造及び設計部門の効率化により原価低減を図るとともに、営業体制の強化による受注拡大を目指し、業績の維持・拡大に努めてまいります。

自動車関連事業につきましても好調に推移するものと予想しております。トップライン(売上)の成長を命題に、付加価値の高い新製品の開発と、トヨタ生産方式の推進による利益の拡大を図ってまいります。

このような環境のもと、当社はグループ企業の純粋持株会社として、グループ企業全体の成長と収益性向上を目指し、各々の事業分野で市場動向を踏まえた事業戦略を立案し、機動的な対応により競争力を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。